

50万分の1鉱物資源図「北海道東部・西部」

成田 英吉¹⁾・矢島 淳吉¹⁾・太田 英順²⁾・渡辺 寧³⁾・
羽坂 俊一²⁾・羽坂なな子²⁾・平野 英雄⁴⁾・須藤 定久³⁾

1. 新シリーズの発行

50万分の1鉱物資源図の発行は、地質調査所の鉱物資源関係の研究者にとって、鉱物資源研究100年の歴史を総括する大きな目標でした。1975年頃から1985年頃にかけて作成が試みられ、「網走」、「釧路」、「旭川」、「札幌」、「青森」、「鹿児島」などは完成の一手手前までいったのですが、印刷に至らず、多くのベテラン研究者の退官と共にこの努力は中断されることになってしまいました。

しかし、最近これら資源図のために集積された基礎データを、パソコンを使った支援システムで改訂・補足することにより、懸案の50万分の1鉱物資源図の発行が可能となり、新シリーズ「50万分の1鉱物資源図」の発行を開始しました。その最初の図面が「北海道東部・西部」です。

2. 発行の意義

従来、鉱物資源図は金属資源の開発・研究用としての用途・意義が大きかったと言えるでしょう。しかし近年、国土の環境保全が大切であることが認識されるようになり、「自給が必要な資源の確保」と「環境保全」のバランスをどのようにとっていくかということが、重要な問題になっています。このような問題を考えるための基礎資料として、「資源開発関係者や研究者」のみならず「行政」や「教育現場」で、さらに、広く一般の方々に見ただけ、そんな「鉱物資源図」が必要とされるようになってきました。

3. 50万分の1鉱物資源図の特徴

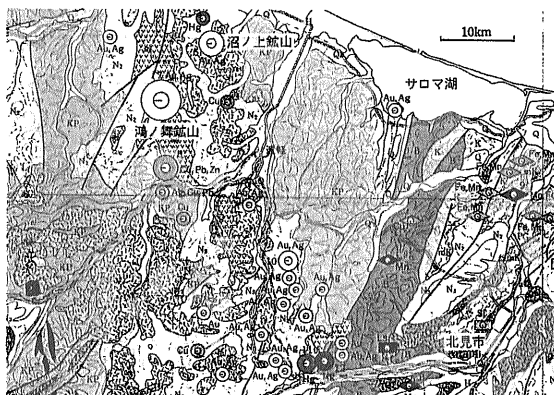
このような社会の変化に対応するために、この新

しい「50万分の1鉱物資源図」では様々な工夫をしました。

図画（ずかく：図面の範囲）の変更：国土地理院発行の地方図の図画を採用し、全国を北海道東部、北海道西部、東北、関東甲信越、中部近畿、中国四国、九州、沖縄及び島嶼の8枚でカバーすることにしました。各都府県が1つの図面に入り、地方単位で眺めることができるなど、利用上の利便性を優先しました。

詳しさより見易さ：鉱物資源図の下地となる地質図は100万分の1地質図を簡略化し、表示鉱山も絞り込み、見やすい図面としています。鉱床を表すシンボルについても様々な工夫をこらし、適度な大きさと必要な情報を表示できるシンボルを考えました。

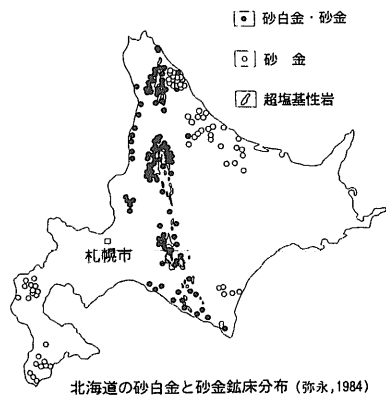
統計データやデータベースとの連携：その地方の鉱産資源の分布状況や特徴を理解していただくための参考資料として、鉱産物の産出データを視



第1図 北見地方の金・銀床群。「北海道東部」の一部。主な地名・鉱山名を表示した。

- 1) 元所員
- 2) 地質調査所 北海道支所
- 3) 地質調査所 資源エネルギー地質部 (*は執筆者)
- 4) 地質調査所 地質情報センター

キーワード：鉱物資源、鉱物資源図、北海道、金属資源、非金属資源



北海道の砂白金と砂金鉱床分布 (弥永, 1984)

第2図 北海道の砂白金と砂金鉱床分布。「北海道西部」の付図。凡例・地名等の表示は変更した。

覚的に見やすい図や表として添付しました。

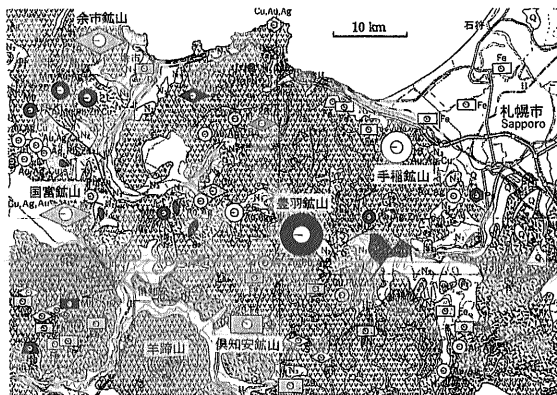
短期完成を目指します：「自給資源の確保」と「環境保全」との兼ね合いを模索する基礎資料として、早急に全国均質なデータを提供するため、短期完成を目指します。

4. 「北海道東部・西部」の見どころ

新しい「50万分の1鉱物資源図」の最初の図面である「北海道東部・西部」は1996年12月に発行されました。北海道の中央を境に、「北海道東部」と「北海道西部」の2枚からなり、前者には北方領土も含まれています。両者を別々の図面としても使えるように表題や凡例はそれぞれに付けられています。

この図面の見どころを紹介してみましょう。

- ①北海道は火山とそれに伴う鉱物資源の宝庫です。知床半島やニセコ火山群などでは、火山の山頂近くに硫黄鉱床が、山麓には褐鉄鉱床が発達しているさまを見ることができます。
- ②北見地方は金と水銀の特産地。黄色の丸いシンボルで金鉱床が沢山示されています。その中心にひときわ大きなのが鴻ノ舞鉱山、日本第2の金鉱床です(第1図)。この地域は、日本



第3図 道南山地の鉱床群。「北海道西部」の一部。主な地名・鉱山名を表示した。

最大の水銀鉱床地帯でもあり、日本第1の水銀鉱山イトムカ鉱山もこの一角にあります。

- ③宗谷岬から日高山地へ続く地域はクロム、砂金、砂白金の産地です。付図に砂金、砂白金の産地の分布状況が見事に示されています(第2図)。今でも各地の川で砂金や砂白金を採取することができます。
- ④札幌市の南西に広がる道南の山々は鉛、亜鉛、金、銀、マンガンなどの産地です。豊羽鉱山(鉛・亜鉛)、倶知安鉱山(鉄鉱石)、大江鉱山(銅)、千歳鉱山(金)などの鉱床があり、日本有数の鉱床密集地域となっています(第3図)。
- ⑤主な金属の生産量がグラフや立体マップで示されています。北海道の金属資源の産地が北見と道南に集中している様子が読みとれます。
- ⑥北海道の金属別の生産推移を見ると銅の生産量が異様に少ないことがわかります。いったいなぜなのでしょう？

みなさんも是非一度この鉱物資源図をご覧ください。意外な発見があるでしょう。また、北海道に続き50万分の1鉱物資源図「東北」も出版されました。20世紀中に全国カバーできるか？ 乞うご期待！